ICT ニュース 2026/10 月

今年は 9 月末にインフルエンザが例年より 1 ヶ月早く注意報レベルとなりました。10 月は各地域で祭典や運動会などの行事が目白押しですので感染拡大リスクを懸念しています。
予防接種は例年より早く接種を開始していますが抗体価も充分とはいえない状態です。
今回は、感染のリスクと免疫とワクチンについて案内させていただきますので、今後の感染対策の参考にしてください。



●インフルエンザとコロナウイルスの違いと共通点

	新型コロナウイルス感染症	季節性インフルエンザ
原因ウイルス	新型コロナウイルス	インフルエンザウイルス
潜伏期間	2～4日	1～3日
感染経路	飛沫・エアロゾル・接触	飛沫・接触
ウイルス排出期間	発症2日前～発症後7～10日 発症後5日間が感染リスク高い	発症1日前～発症後5～7日目 発症後3日間が感染リスク高い
主な症状	発熱・筋肉痛・倦怠感・咳・咽頭痛・下痢・味覚嗅覚障害	高熱・関節痛・筋肉痛・咳・咽頭痛・鼻水
重症化率（60歳以上）	2.49%	0.79%
致死率（60歳以上）	0.01～1.99%	0.01～0.55%
治療薬	ラゲブリオ・ベクルリー・ゾコーバ・重症例にはステロイドなど	タミフル・イナビル ラピアクタ・ゾフルーザなど

どちらも高齢者にとっては重症化と致死率が高くなるため、高齢者のいる家庭や病院･施設で勤務される方、訪問される場合は注意が必要となります。

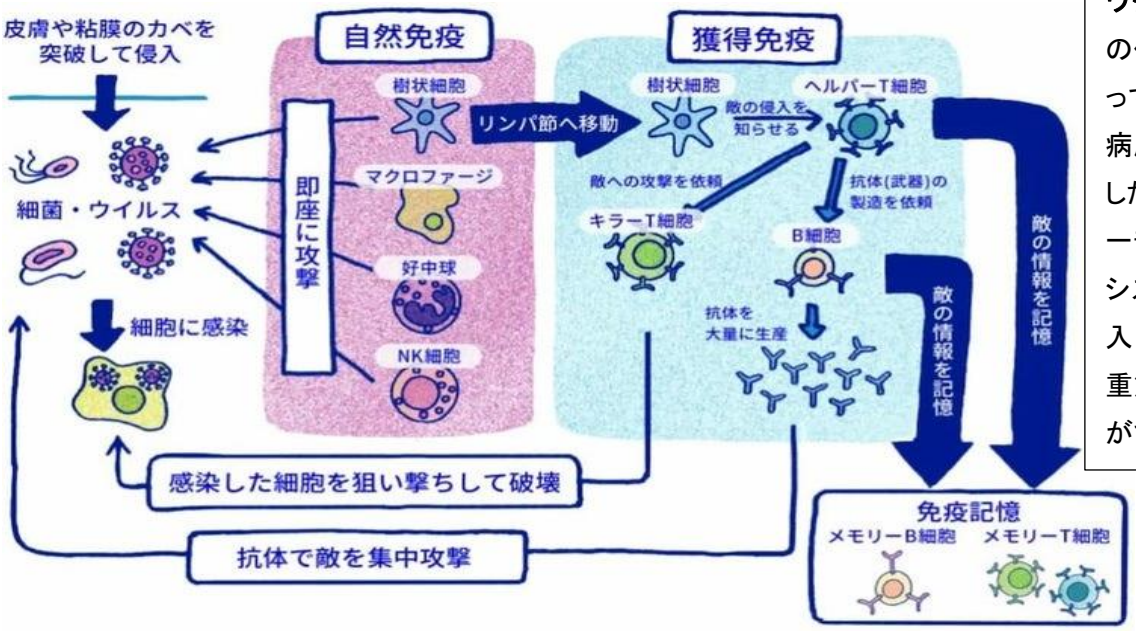


●免疫とワクチン

免疫とは、体の中に侵入した細菌やウイルスなどの病原体（敵）を見つけ出し、追い払う「体の防御システム」です

自然免疫（生まれつきの力）：体に入ってきた敵をすぐに見つけて、その場で退治する最初の見張り役であり、マクロファージや好中球などのことをさします。

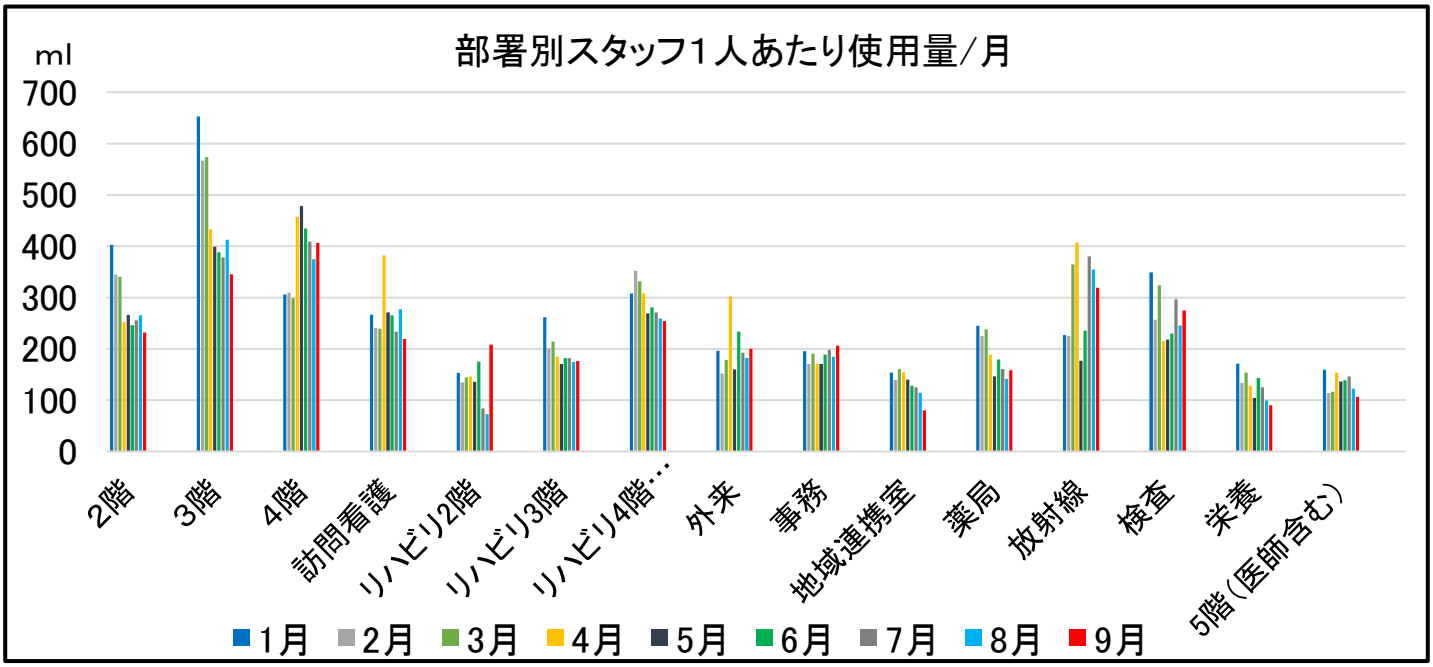
獲得免疫（あとから学ぶ力）：自然免疫だけで倒しきれない強い敵に出会ったとき、その敵の特徴（目印）を分析し、それに一番よく効く武器（抗体）を作って攻撃します。一度戦った敵のデータは体の中に「記憶」されるため、次に同じ敵が入ってきたときは、すぐ強力に追い払うことができます。

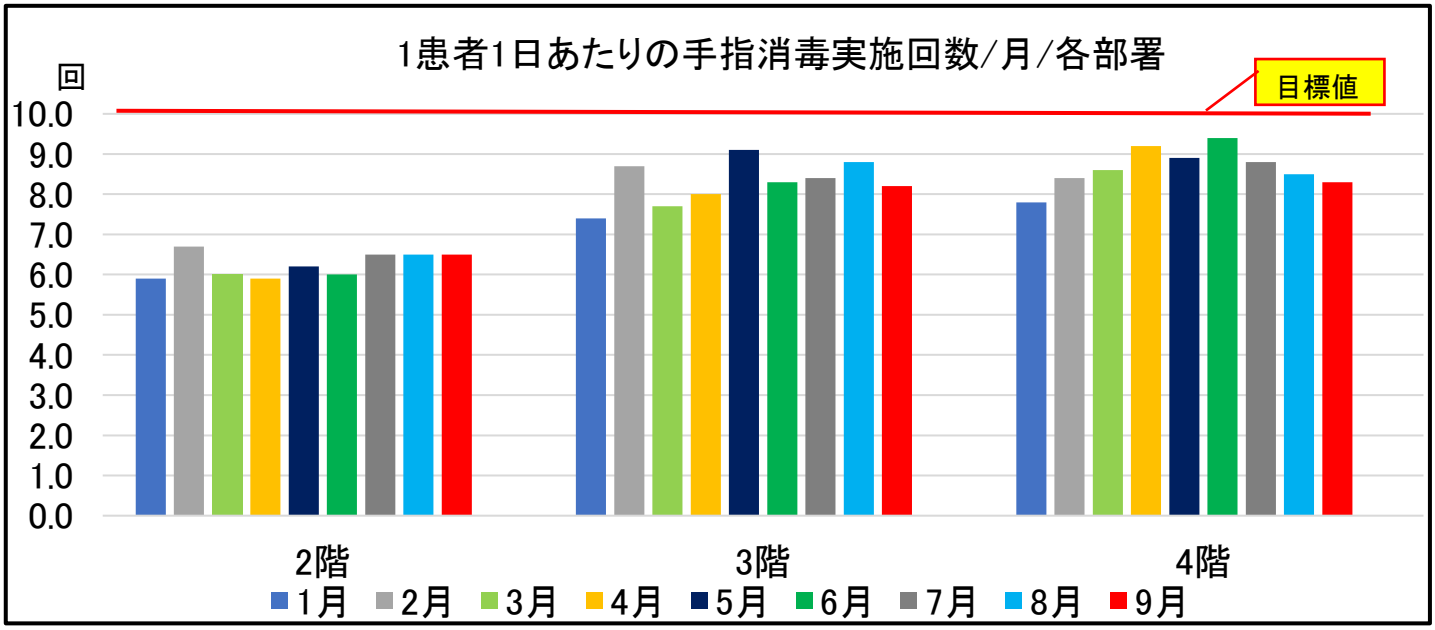


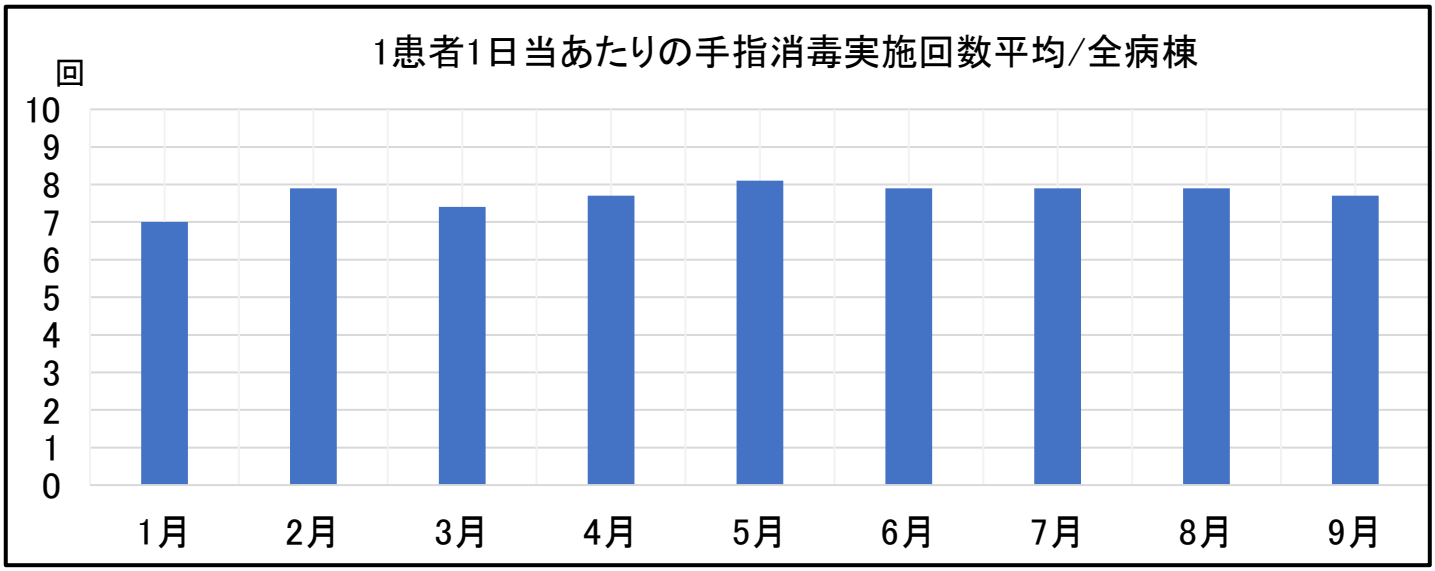
図：ファイザー(株)提供

ワクチンとは、「獲得免疫」の仕組みを事前に安全に作っておくための薬です。
病原性（毒性）を完全になくしたり弱めたりした病原体の一部を接種することで、免疫システムが次の病原体の侵入に備えられるようにして、重篤な感染症を予防することができます。

★2026 年アルコール手指消毒剤使用量







★シルバーウィークと院内の感染症が落ち着いたせいもありますが、全体的に使用量が増加しません。
インフルエンザはじめ呼吸器感染症が増加していますので、タイミングよく手指衛生を心がけてください